

自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員に「どんなホームにしたいか」「大切にしていきたいこと」などについて言葉で表現してもらい、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくらせている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を形式的なものにしないで、日常的に職員が意識して働いている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームだよりの活用や地域住民などのホーム見学の場面でわかりやすく説明している。また、パンフレットなどの配布もおこなっている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地環境的に隣近所とのつきあいは困難である。併設保育園の保護者の方とは挨拶を交わしている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の学生、高校生、専門学生、大学生、中学校の教員などの実習を積極的に受け入れしている。また、地域での行事などに参加している。併設保育園の園児との交流や行事などを一緒に行っている。	○	運営推進会議で情報収集し地域活動の参加、地域の人々との交流を深めていきたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生、ボランティア見学の受け入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	努力している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	努力している	○	運営推進会議を定期的開催しサービスの質の向上に努めていきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1回、市職員の研修の受け入れを行っているが、市担当者との連携は行っていない。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの外部研修にできるだけ参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修などに参加し虐待の防止の徹底につとめている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	契約時には、利用料金や重度化、看取りについての対応などについて説明し、同意を得るようにしている。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	利用者本位の運営を心がけている。利用者の不安、意見などは、各ユニット毎に話し合いを行なっている。		介護相談員の派遣を受け入れ、利用者が外部に声を表わせる機会を確保している。
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりを発行して行事などの写真を掲載し家族さんに伝えている。また、手紙、電話、面会時に暮らしぶり、健康状態などについて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。ふだんから気軽にホームに対する意見を出していただくように伝えている。	○	家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ふだんから常にミーティングなどにより職員の意見や提案を聞くようにしている。また、フロアー会議、主任会議、全体会議を行い職員の意見交換をしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常時必要に応じ柔軟に考えている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し顔なじみによるケアを行っている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や併設特養での研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町のグループホーム協会に加入し勉強会、情報交換などを行なっている。 兵庫県宅老所・グループホーム連絡協議会、全国宅老所、グループホーム協会の研修会に参加し他の施設の方々と交流している。 つどい場さくらちゃんの勉強会に参加している。		6月に設立された西播磨の介護をよくする会に加入し月に1回参加している。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に2～3回グループホームの親睦会を行っている 年に1回法人全体で親睦会を行っている。		今年から年に5～6回の予定にしている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部より講師をよんで法人全体で研修を行っている。また、関連学校法人の研修にも参加している。 外部研修に積極的に参加できる環境がある。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で必ず本人に会って、生活状況を把握し不安や希望などについて聴取する機会を作っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めていることを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況などを確認した上でアドバイスしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらっている。利用後については、家族などに来所していただき安心感を持ってもらうようにしている。 家族がなんでも言える関係作りに努めている。	○	共用型通所介護サービスを行いたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごす中で、職員も笑ったり、泣いたり、怒ったりして、利用者から励ましてもらうこともある。 昔ながらのこより作りなどを教えてもらったりしている。		思い出話、昔流行した話などで一緒に盛り上がっているまた、人生の先輩として頼っている。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめこまかく伝えている。散歩に連れて出ていただいたり、リハビリをしてくれたり職員の手助けをしていただいている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事などに家族を誘ったりしながら、よりよい関係の継続に努めている。一緒に食事をしてもらうこともある。また、心が離れていた家族関係の修復に努めるよう努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人や近所だった方の訪問を歓迎している。また、できる限り家族とも相談し職員ができない部分を家族にお願いして継続できるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事、お茶の時間は職員も一緒になって会話をしている。 食事の席などの配慮を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された利用者も行事などがあれば参加していただく機会を作っている。家族さんにも遠慮なく遊びに来てもらっている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを受け止めできる限りの希望にそえる努力をしている。	一人一人の望む暮らし方に沿うように努力している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で本人や家族などから聴き取るようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	問題のみを拡大視せず日々の暮らしの中で状態像を総合的に把握するように努めている。	一人一人ができることしたいことなどのチェック表を作り有する能力の把握に努めている。また、時間がかかってもできることは自分でしてもらっている。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位の計画作成がきちんと実施できていない。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しがきちんと実施できていない。	○

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事量、バイタル、暮らしの様子などを記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院など必要な支援は柔軟に対応し、家族の負担の軽減を図るようにしている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のふれあいボランティア、学生ボランティアの方たちの協力により少しでも安らかに生きいきとした暮らしができるように努めている。	○	周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけて、事業所をより一層開放的にしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容サービスを利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとのかかわりはほとんどない。	○	今後運営推進会議への参加を呼びかけ関係の強化に努めていきたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族さんの希望に応じ往診(内科・歯科・皮膚科)を受けてもらっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の専門医に受診してもらっている。必要に応じて職員が相談したり助言をもらったりすることもある。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設している特養の看護師に相談、対応してもらっている。24時間相談できる体制を確保している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにふだんから医療機関と話をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針として、重度化、終末期について、本人または家族さんの意向に可能な限り応じている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変した場合は、対応していただけるように医療機関と調整ができています。	○	重度化や終末期の利用者または、家族を支えるために医療機関との話し合い、チームとしての連携強化をしていきたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活環境、支援の内容、注意点などについて情報提供を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。		フロア会議などで職員の意識向上を図っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた支援をするように努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支援している。		一人ひとりにあったペースで自由に過ごしてもらっている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好みに合った服装や身だしなみを個々に支援している。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、盛り付けをしてもらったり、食器などの片付けを手伝ってもらっている。		職員と利用者が一緒に食事をしている。また、利用者と一緒に採ってきた畑の野菜を調理し、1日の活動のひとつとしている。
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好物を本人の様子や時間をみながら、楽しめるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄誘導、失禁時の対応など配慮し個々の状況に合わせて支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には時間帯を決めて入浴してもらっているが、状況に応じて時間に関係なく入浴していただくこともある。		夏場は露天風呂で温泉気分を楽しんでいただいている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者にあった休息や睡眠をとれるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族からの聴き取りから一人ひとりの自信につながることや楽しみなどを把握し手伝ってもらえるような作業をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		梅干、七夕のこより作りなど利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作っている。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、小額を手元にもってもらっている。 お金を自分で払う機会の確保はできていない。	○	外出時などお金を自分で払っていただく機会を作っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそって外出できるように努力している。 月に1～2回は外出、外食を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	計画を立て外出支援を行なっている。また、家族の協力、参加を依頼することもある。		少人数のグループに分かれて外出など行っている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望すれば電話で家族と話をしてもらっている。利用者から手紙を出したいという希望はほとんどないが、送られてきた手紙はとても大事にされている。		毎年利用者さんに年賀状をかいてもらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	一緒にお茶を飲んだり、おやつを食べていただいたりしている。希望により食事や宿泊もできるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠についてはハード面よりやむをえず施錠している。	○	家族などの意見を確認したうえで利用者の身体面、精神面を考慮し施錠せず安全に過ごせるよう支援していきたい。
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が利用者を見守りできる位置にすることを徹底している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くことはなく、利用者の状況、変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録している。事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設特養の看護師による急変時などを含めた勉強会に全職員が参加している。また、救急手当てや蘇生術の研修にも参加している。 昼間、夜間時の救急対応についてマニュアルを作成し職員の周知徹底を図っている。		全職員が応急手当などに関して知識と技術が身につくよう努力していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での消防、防災委員会に出席している。 法人の消防計画がある。 定期的に消防訓練を行っておりその際にはできるだけ多くの職員に参加してもらうようにしている。		防災意識を高めるため消防自主検査チェック表を各フロア単位で行っている。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクが予想される際には事前に家族に相談し話し合いを行なっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルを測定している。普段の状況を把握し体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見、対応を行っている。状況により特養看護師に報告し指示をもらっている。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケースごとに整理し職員が内容を把握できるようにしている。処方に変更があればきちんと申し送りしている。 服薬確認をきちんと行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多く含まれた食材を使用している。水分補給、運動などの支援について常に気を配っている。		繊維の多い野菜、ヨーグルト、雑穀ごはん、水分摂取、運動など工夫して取り組んでいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの声かけ、介助を行いシートにチェックしている。また、就寝前は義歯の洗浄を行っている。		定期的に歯科往診で口腔チェックをしてもらっている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎日チェックし記録している。水分量については声かけ、介助にて約1500ccを目標にしている。主治医、看護師からの指示があれば水分量をつけている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてマニュアルを作成し、職員間で学習し予防、対策に努めている。 毎年全員インフルエンザの予防接種を受けている。 スウェーデンの特殊なモップ、クロスを使用している。		新型インフルエンザ予防として手洗い、うがい、消毒の強化に努め、面会者にも協力していただいている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い置きせず、生物の使用には細心の注意をし、調理用具も殺菌や乾燥機にかけるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気玄関になるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはくつろげるように畳コーナーやソファを設けている。壁面には季節感をあらかず飾り付けをしている。 年に数回模様替えをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーを設け仲のよい利用者同士でくつろげるスペースを設けている。また、居室にソファを設置し仲良し同士で過ごせるようにしている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札をかけた、自宅ですべての家具や大切にしていた物品はなるべくもってきていただくようにしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度調整は利用者の状況に応じてこまめに行っている。 除菌の空気清浄機を設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室などに手すりが設置してあり安全かつ自立した生活が送れる環境となっている。 台所の流しなど利用者が作業しやすい高さとなっている。また、体型に合わせて椅子、テーブルの高さを調整している。 トイレにファンレストテーブルを設置している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状況に合わせて間違い防止などの張り紙、目印などを表示している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で談笑やレクリエーション、バーベキュー、ウッドデッキで盆の送りなどをして生活に変化を創り利用者を楽しんでもらっている。また、外周で菜園スペースを確保している。		

(部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
項	目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・認可保育園が隣接している。また、3階でホームと保育園がつながっている。
- ・同敷地内に特養がある。
- ・別法人で介護と保育の養成校がある。